特別講演では、沖縄気象台地域防災推進課の奥平貞雄氏と地震火山課の浜比嘉美香氏より「自然災害について（台風、大雨、地震・津波）」と題して、防災気象情報、地震・津波情報の読み取り方や避難の方法等の説明が行われました。

本大会の「安全の誓い」が、（株）おきさんの親川恵美子氏により読み上げられ、参加者全員の総意により採択され、建災防沖縄県支部中部分会の安全指導者の島袋英樹氏が代表となって参加者全員で指差唱和をし、ゼロ災を誓いました。

北部地区

6 月 6 日（木）、北部会館 3 階研修室にて令和 6 年度北部地区安全管理推進大会を開催し、44 事業所 102 名の参加がありました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、沖縄産業保健総合支援センター大村副所長のあいさつで開会し、続いて、建災防沖縄県支部北部分会仲程分会長より主催者代表挨拶がありました。

上原周名護労働基準監督署長からは「北部地区においては、死亡災害は2年連続で発生していなかったが、今年に入り足場組立作業中の作業員が足場から墜落し亡くなる死亡災害が発生した。近年は『転倒』や『腰痛等』の労働者の作業行動に起因する増加し歯止めが利かない状況が続いている。労働災害を減少させるためには、管理体制を整備した上で、それぞれの作業内容に応じ、『転倒』や『腰痛等』の発生につながる要因を見つけ出し、作業のリスクを評価し、リスクの大きなものから対策を検討するリスクアセスメントの実施が重要となっている。」旨の来賓挨拶がありました。

伊波労働基準監督官からは、AI を用いて作成した資料により、安全週間趣旨説明、様々な労働災害の発生状況とその対策方法、健康づくり対策について図を用いた分かりやすい説明がありました。

特別講話は、大同火災海上保険（株）の照屋勝則氏による「自動車交通安全講習会」と、同社の島袋康平氏による「労働災害の防止に向けて」の二部構成で、元警察官である照屋氏からは様々な現場で目にしてきた事故等の発生原因とその対策について映像も交えながら、身近な交通災害について分かりやすい説明があり、島袋氏からは労働災害の遺族の言葉と直接お会いすることで受けた感想や、その補償の内容等を具体的にご説明いただきました。

（有）マル井建設の又吉柊人氏より大会宣言が読み上げられ、労使一体となって労働災害のない職場づくりに邁進することを宣言し採択されました。指差し唱和では、（株）カイコンの宮城周策氏声出し、参加者全員で安全週間スローガン読み上げ新たに団結を図りました。

最後に、樽岡沖縄労働基準協会北部支部長より参加者への感謝の言葉のあと「今日のこの大会を契機に、みんなで健康で事故のない職場づくりに取り組み、安全週間はもとより、これから一年間、ゼロ災害を是非達成しましょう。」と閉会挨拶がありました。

宮古地区

6 月 4 日（火）、宮古島市中央公民館（未来創造センター）にて、令和 6 年度宮古地区安全大会を開催し、昨年度を上回る 39 事業場 105 名の参加者が集い、以前の活気を取り戻しつつありました。

参加者全員で黙とう後、城間正昭陸災防沖縄県支部宮古分会の挨拶により開会し、渡真利勝沖縄県労働基準協会宮古支部長からは、宮古圏域の観光客増加により各職種において人手不足が喫緊の課題であるが、各職場では環境整備などに取り組み、安全な職場づくりをお願いしたい旨あいさつがありました。

井上茂樹宮古労働基準監督署長からは、「宮古地区おいては、昨年6月以降3人の方が亡くなり、大変憂慮すべき事態となったことから、宮古地区の各災害防止関係団体に死亡災害防止対策の徹底について緊急要請を行った。安全週間のスローガンの下、宮古地区の労働者一人一人が安全に働くことができる職場環境を築くため、労使一丸となった取り組みをお願いする。」旨の来賓あいさつがありました。また、同監督署の大久保優駿監督官から、宮古地区の死亡災害の発生状況とその原因・安全対策に言及した説明がありました。

特別講演では、島の保健室の西里えり奈氏より「健康管理の視点から診る熱中症対策」と題して、塩分水分の摂り方、具体的な取り入れ方の提案があり、わかりやすいと好評でした。

大会宣言が、砂川恵史朗港湾災防沖縄総支部宮古副支部長より読み上げられて採択され、建災防沖縄県支部宮古分会安全指導者の野原雅也氏を筆頭に参加者全員でスローガンに向かい指差唱和が行われ、労働災害ゼロに向け決意を新たにしました。